

# 稲・大豆作情報 (NO. 2)

## 1. 水稲作況情報田の生育概況(7月7日現在)

品 種 場 所	移植日 栽植株数	年 次	現在の生育状況			概況
			草 丈 cm	茎 数 本/m <sup>2</sup>	主稈 出葉数	
夢しずく 佐賀市本庄町	6/15 17.5株/m <sup>2</sup>	本 年	35.6	283	7.3	雨天が続き、「さがびより」 「ヒヨクモチ」は草丈、茎数 、葉齢ともに、平年よりも低 く推移している。 暖冬のため越冬したスクミ リンゴガイが多く、深水とな った一部の圃場では食害も 確認されている。
		平 年	35.7	184	7.2	
		平年比	(100)	(154)	(+0.1)	
さがびより 小城市芦刈町	6/22 16.1株/m <sup>2</sup>	本 年	26.0	116	6.5	
		平 年	34.1	175	7.4	
		平年比	(76)	(66)	(-0.9)	
ヒヨクモチ 小城市牛津町	7/1 18.5株/m <sup>2</sup>	本 年	14.4	67	4.5	
		平 年	23.8	80	5.8	
		平年比	(61)	(84)	(-1.3)	

注1) 各品種 前作: 麦

注2) 施肥及び病虫害防除は地区基準に準ずる。

## 2. 水稲管理

**田植え時の植え痛み、麦わら腐熟によるガス湧きにより、活着・分けつが遅れている。  
圃場管理により、できる限り生育回復に努める。**

### ○水管理

- 圃場の水位調整を怠って、深水になっている圃場が散見される。
- 除草剤施用後湛水期間を過ぎた圃場は、溜め水とせず土壤に酸素を供給するため、速やかに間断かん水に移行し、稲体の健全化を図る。
- ガス湧きが続いている圃場は落水→浅水の継続とともにガスの有無を定期的を確認し、土壤の健全化も図る。
- また今年はスクミリンゴガイも多く確認されている。食害圃場も平年より多く確認されているため、降雨が続いているが、浅水にして貝の活動抑制を行うと共に薬剤防除を実施する。

### ○除草剤 ~初期剤散布の遅れた圃場は特に雑草の生育に注意~

- 雑草の生育(葉齢)に注意し、中後期除草剤による早めの対策を講じる。

### ○中間追肥 ~ヒノヒカリ、ヒヨクモチ~

- 元肥を即効性の肥料(BB480等)を使用する場合は次の通り。  
「ヒノヒカリ」: 7月5~10日頃に、窒素成分で2kg/10a(BB480で15kg/10a)程度  
「ヒヨクモチ」: 7月15日頃に、窒素成分で1.6~2.1kg/10a(BB480で12~15kg/10a)程度

## 3. 大豆管理 ~圃場条件が整い次第播種を~

今後も雨天が続く見込みで、梅雨明けはまだ予測できていません。今後の気象状況に留意しながら、圃場条件が整い次第、速やかに播種作業に移れるように準備を行いましょう。

### ○耕起

- 荒起は圃場が乾くのを待ち、播種前日~当日に行う。

### ○播種

- 種子消毒: 紫斑病や腐敗防止および発芽率の向上のため、必ず実施する。

•播種量

播種日	栽植本数 ㎡あたり	栽植様式 条間×株間×1 株本数	播種量 (kg/10a)
7月6日～15日	13本	75×20×2	4.0

•播種深度

土壤水分が高い場合や播種後2～3日以内に降雨が予想される時→2cm程度の浅め 鎮圧はしない  
播種後に晴天が続く場合は、4～5cm前後の深めにして鎮圧をおこなう。

•除草剤

播種前)「ラウンドアップ」「プリグロックス」など茎葉処理剤の散布において、風の強い日の散布は周辺水稻へ影響が大きい(場合によっては枯死まで至る)、必ず避ける。

播種直後) 土壤処理剤を散布し、雑草防除を行う。特に近年問題となっているホオズキの発生が多い圃場では、「ラクサー乳剤」が効果的である。播種直後の散布でも、隣接圃場の水稻へドリフト防止のため風速と風向き等に注意し、風が強い日には散布しない。

※アサガオについては、多発すると大豆の作付け自体が困難になるため、見つけ次第手で抜き取る。

### 令和2年産水稻生育期間気象グラフ (アメダス：佐賀)

佐城農業改良普及センター

